

包装開発 全国W受賞

一関市地主町の包装容器設計製造・東北ウエノ(鈴木雅彦社長)は、廃棄物を減らし荷役を軽減する包装で、2024日本パッケージングコンテストなど二つの全国賞を受けた。対応が急がれる物流の2024年問題に一つの解を出したとして、高い評価を得た。製造、輸送などの物流過程に包装業界が加わることで改善を促した実例として、広がりが見込まれる。

一関・東北ウエノ

同コンテストは、日本包装技術協会(東京)が主催する国内最大級の品評会。全国129件の中から、同社は包装技術賞ロジスティクス賞に選ばれ、8月下旬に東京都で表彰された。今春、都内で開かれた全日本物流改善事例大会

樹脂素材で荷役軽減 24年問題、環境も配慮

2024(日本ロジスティクスシステム協会など主催)でも、優秀物流改善賞物流業務部門に入った。

開発したのは、半導体製造装置用エアフィルター用の梱包材。使い捨て段ボールを、軽くて強度が高く繰り返し使える樹脂製に変えた。これにより月1トの廃棄段ボールをなくした。二酸化炭素排出量も年間4・3ト削減できる計算だ。

荷役も軽減した。従来は薄い板状の段ボール箱に、フィルター2台を収納。形が不安定なため、人力で運んでいた。改善後は平たいサイコロ状のケースに16台を収納し、フォークリフトで運べるようになる」と見据える。



東北ウエノが開発した新型包装。荷役を軽減し、環境負荷も抑える(同社提供)



賞状とトロフィーを手にする(左から)佐々木幸子課長、鈴木雅彦社長、田原祐樹次長